DX・AI活用推進 — サービス資料

AIで、日々の業務を軽くする。

何から始めるかも、実際に作るところも。

御社の業務を一緒に整理し、AIで手間を減らせる仕事を見つけます。専任の担当者がいなくても、月額でAI活用を進められます。

Locamoca株式会社

2026年11月

いまの困りごと

こんな状態ではありませんか。

「AIを入れろ」と言われたが、何から始めるか決められない

社長や取引先からの要請はある。でも、任せられる担当者がいない。

ChatGPT などを契約したが、一部の人しか使っていない

道具はある。業務のどこで使えば効くのかが、社内で共有されていない。

定型業務に人が張り付いている

見積、問い合わせ対応、報告書。人が採れない中で、同じ作業が毎日続いている。

業者の提案が妥当かどうか、判断できない

ツール導入や開発の見積もりを、社内で目利きできる人がいない。

考え方

専任の担当者がいなくても、
月額でAI活用を進められます。

ツールを売るのではなく、御社の業務のどこにAIが効くかを一緒に決め、小さく作って現場で試し、社内で使い続けられる形に整えます。うまくいかなかったことも、毎月そのまま共有します。

何をするか

やることは、3つ。

1

取り組む業務を決める

初月に現状を整理し、効果と実現しやすさから優先順位をつけます。「何から始めるか」を、ここで一緒に決めます。

2

作って、現場で試す

定型業務の自動化やAIを使った仕組みを小さく作り、実際の業務で確かめます。大きな仕様を先に固めません。

3

使える形に育てる

現場の声をもとに改善し、効果と課題、次に取り組むことを毎月共有します。社内で回るところまで付き合います。

役割分担

決めるのは御社。作るのは私たち。動くのは AI。

御社

- 何に困っているかを話す
- 優先順位を決める
- 現場で使って、感想を返す
- データの範囲を決める

Locamoca

- 業務を整理し、効く場所を見つける
- 小さく作り、現場に合わせて直す
- 使い方を社内に広げる
- 効果と課題を毎月報告する

AI

- 下書き・分類・要約
- 定型作業の自動実行
- 社内文書を読んで答える
- 御社名義のアカウントで動く

AI の判断を御社に押しつけません。最後に決めるのは人で、AI は「人が決めやすいように下ごしらえする係」です。

進め方

初月に決めて、2か月目から作り、毎月育てる。

初月

棚卸しと計画

- 業務と道具の現状を整理
- 効果と実現しやすさで優先順位
- 「進め方の計画」を1枚に

2か月目〜

小さく作って試す

- 1つの業務に絞って作る
- 実際の業務で使って確かめる
- 使い方を社内に広げる

毎月

定例・改善・報告

- 月1回か隔週の定例（訪問でもオンラインでも）
- 現場の声をもとに直す
- 効果・課題・次の一手を共有

3か月ごとに計画を見直します。月額の対応範囲を超える開発は、内容を伺って別途お見積もりします。

最初の 6 か月

半年で、2 つの業務が社内で回っている状態に。

	1か月目	2か月目	3か月目	4か月目	5か月目	6か月目
棚卸しと計画	現状整理 → 優先順位 → 計画					
1つ目の業務		小さく作る → 現場で試す		直しながら使い続ける		
2つ目の業務				小さく作る → 現場で試す		使い続ける
定例と報告	月1回（ライト）か隔週（基本）の定例 ・ 毎月の報告 ・ 3か月目と6か月目に計画の見直し					

3か月目の終わり: 1つ目の業務が現場で動き、効いたかどうかが数字で分かる

6か月目の終わり: 2つの業務が社内で回り、次の半年に取り組むことが決まっている

提供の形

月額の伴走。2つのプランから。

	ライト	基本
稼働の目安	月14時間	月20時間
定例	月1回	隔週
中身	相談対応、優先順位づけ、ツール導入の支援	ライトの内容に加えて、定例の間の作業、小さな自動化、AI Agents の作成
最低契約・初期費用	6か月・0円	6か月・0円

料金は、無料相談のあとに文書でお伝えします。値引きはせず、開始日とプランで調整します。

月額の範囲を超える開発（業務システム、アプリなど）は、内容を伺って別途お見積もりします。

取り組みの例

たとえば、こんな業務から。

定型業務の自動化

見積の下書き、問い合わせの一次対応、日報・報告書のまとめ

社内に「使う習慣」をつくる

AI利用のルール、部署ごとの使い方、うまくいった例の共有

業務に合わせた AI Agents

問い合わせの振り分け、資料の下書き、データの整理を、御社の手順どおりに

業者の提案の目利き

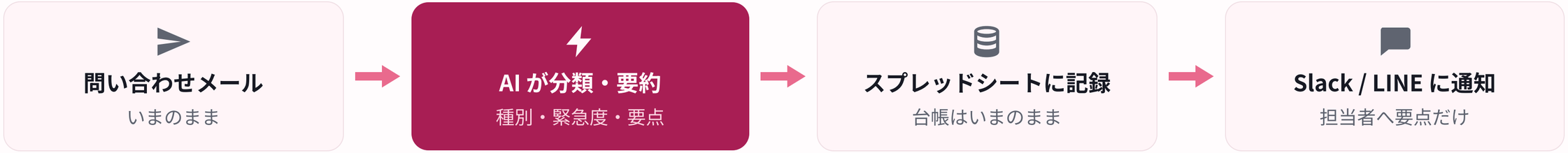
ツール導入や開発見積が妥当か、御社の側に立って一緒に見ます

どれも「1つの業務に絞って小さく作り、現場で試す」から始めます。最初から全部はやりません。

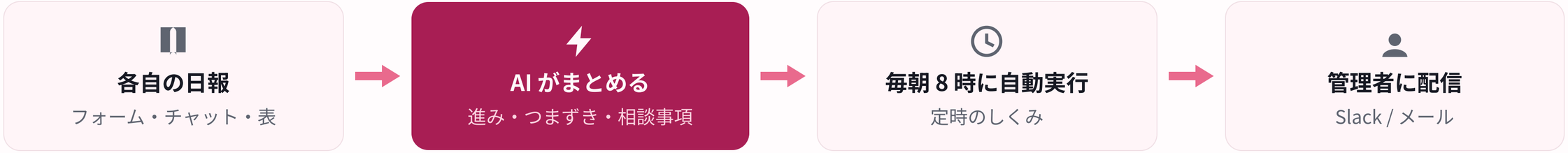
つなぎ方の例

いまの道具の間に、AI を 1 つ挟む。

例1: 問い合わせメールを、分類して記録して知らせる



例2: 日報を集めて、朝いちばんに要点を配る



どちらも、いまの道具は替えません。AI の部分だけを御社名義のアカウントに置き、効いたら次の業務へ広げます。

つなげられるもの

いま使っている道具に、AI をつなぎます。

チャット・通知

Slack、LINE、メール、プッシュ通知

例: アプリの不具合や注文を Slack に自動で知らせる。日報や問い合わせの要約を毎朝チャットに流す

業務データ

Notion、Google スプレッドシート・Drive、CSV、既存システムの API

例: 問い合わせを AI で分類してスプレッドシートに記録する。見積の下書きを既存の台帳から作る

AI・音声

Claude、OpenAI（文章・音声）、音声合成、Web 検索、地図

例: 社内文書を読んで答える窓口。電話や会議の文字起こしと要約

クラウド・基盤

AWS、Google Cloud、Firebase、Supabase、Vercel

例: 御社名義のアカウントに、小さな仕組みを置いて運用する

自動で動かす

定時実行、GitHub Actions、ブラウザの自動操作

例: API の無い管理画面を人の代わりに操作して数字を集める。毎週の集計を自動で届ける

決済・計測

アプリ内課金、Stripe、GA4、独自の利用計測

例: 使われた回数と原価を毎週見て、続けるかを数字で決める

Slack・LINE・Notion・メール・AWS・Firebase・Supabase・アプリ内課金は自社や受託で実績があります。それ以外も、API のある道具なら相談のうえで対応します。

受託開発の実績

要件から運用まで、AI を併用して一気通貫で。

コミュニティアプリをノーコードから作り直し（1名 + AI、4か月）

相手: 韓国旅行好きの 40〜50 代女性向けコミュニティを、ノーコードで運営していた会社

- iOS / Android / Web のアプリと、管理画面 42 画面
- 利用者 9,000 人超のデータ移行、ストア公開まで
- 設計・テスト・定例資料に AI を併用。テストコード約 7 万行、設計文書 300 件超
- 公開後も月額で保守。問い合わせは当日中に原因と直しを返す

配送車両の整備管理システム（AWS 構築込み）

相手: 全国の工場・共配センターと、契約車両 5,000 台超の整備をやり取りする事業者

- 整備予定の自動判定、帳票 PDF、CSV 取込、認証と権限
- インフラ構築（IaC）から運用引き渡しまで一式で納品
- リリース後は四半期ごとの対応報告書で保守を可視化
- 脆弱性（CVE）の影響分析と対応手順を自前で作成

どちらも、相談 → 要件 → 設計 → 実装 → テスト → 公開 → 保守 を同じ担当が持ちました。受託の詳しい内容は相談のときにお伝えします。

会社について

自分たちでも、AIを使って作っています。

Locamoca株式会社は、システムの開発と運用の会社です。自社のアプリ「odekeke」や音声ガイド「GetAsakusa」を、生成AIを開発と運用に組み込みながら作り、公開しています。その経験を、御社の業務にそのまま持ち込みます。

何が効いて、何が効かなかったかを YouTube・note・X で発信しています。資料や相談でも、同じ正直さでお話しします。

社名	Locamoca株式会社
設立	2023年3月1日
代表取締役	淺野 弘久
所在地	東京都台東区浅草1-13-5 井門浅草すしや通りビル
事業	DX・AI活用推進 / 開発支援・運用支援 / 自社サービスの運営
対応	東京・浅草を拠点に、訪問とオンラインの両方

無料相談（30分）

まずは、自社で何ができるか相談する。

売り込みません。課題と状況を伺い、合うかどうかを正直にお伝えします。相談の結果は1通のメールでお送りするので、そのまま社内で共有できます。

www.locamoca-inc.com の問い合わせフォームから

または locamoca-info@locamoca-inc.com